

風"s・風のたよりオンライン版

2010/9/8 No.163

風のたより163号

あいち国際女性映画祭 9月8日～12日

フェアトレード・ショップ 風"sも15周年を迎えることができました。皆様に支えていただいでこそ今があります。ありがとうございます。

《15周年特典》

映画祭期間中に500円以上のレシートをチケット売り場に提示頂ければ、当日券の1100円から200円割引くことができます！是非、風"sにもお立ちよりください。上映後は、呈茶サービスもしています。皆様のご来場お待ちしております。

■ 今年で15回目を迎える[あいち国際女性映画祭](#)

女性監督の作品を中心に、日本初公開6本、愛知初公開3本を含む海外作品11本と韓国短編作品を6本、国内作品では愛知初公開4本を含む6本と日本短編作品3本、日本映画名作6本を上映します。女性の視点からの映画祭＝女性監督の映画を中心にした映画祭は貴重です。

ここに残る映画も、記録しておかないと忘れてしまう。忘れてもいいけれど、人に伝える時に伝えられない。映画からはいろんな生きるヒントも得られる。また知らない世界に入っていくと出来る。またいまある世界の問題を知ることが出来る。すべて自分の生き方へ風を吹き込む。

テーマにより、自分の人生にからめて見るから、テーマによっては感動が人それぞれだが、なんの期待もテーマに興味があるわけでもなく見た映画に、見終わったあとから妙に気になって、思い浮かぶ場面がある。今回6本の試写会のうち気になるのは・・・

■ ブレスドー日本初公開

・英題: BLESSED

- ・ オーストラリア/2009年/115分
- ・ 監督: アナ・コッキノス
- ・ サンセバスチャン国際映画祭2009 審査員賞(脚本賞)

悩みを抱え、メルボルンのストリートをさまよう7人の子どもたちと、帰りを待つ5人の母親。彼らが織りなす一昼夜の出来事を、子どもと母親それぞれの視点から描く。子どもたちは、愛する母のもとへ帰ることができるのか。母と子の苦悩と葛藤、愛と絆をシリアスに描いた人間ドラマ。(映画祭ホームページより)

写真にある二人は兄妹で、家を出て街に設置されている親善BOX(ごみコンテナと同じ素材と思われる)に暖をとり眠るのだが、ローソクの火で焼死してしまう。

くっついた遺体をみて「切り離さないで、子どもは私の宝だった」というような意味を言う妊娠中の母親は、妹に男を取らせることもあった。

はじめ子どもの視点から話が進み、あとから母親の視点からも描くと言う手法は面白い。父親は陰が薄い。

■ フローズン・リバー

- ・ 英題: FROZEN RIVER
- ・ アメリカ/2008年/97分
- ・ 監督: コートニー・ハント
- ・ 配給: アステア
- ・ 2008年サンダンス映画祭グランプリ/2009年アカデミー賞2部門ノミネート(主演女優賞、オリジナル脚本賞)

夫に新居の購入資金を持ち逃げされ、2人の子どもを抱えてギリギリの生活に追われるレイは、モホーク族のライラとともに、不法移民の密入国という危険な犯罪に手を染めていく。カナダとの国境に面するニューヨーク州最北部の町を舞台に、家族のために必死に生きる母親を描いた衝撃の社会派人間ドラマ。(映画祭ホームページより)

他にも・・・そして中村獅堂さん、コン・ヒュジョン(韓国俳優)さんがゲストとして8日に来場! 監督の話も聞けるのは、あいち国際女性映画祭ならでは!

■ レオニー - 日本初公開

- ・ 英題: LEONIE
- ・ アメリカ、日本/2010年/132分
- ・ 監督: 松井久子
- ・ 配給: 角川映画

世界的に有名な彫刻家、イサム・ノグチの母親であるアメリカ人女性、レオニー・ギルモア（エミリー・モーティマー）。明治から昭和にかけて女性が仕事を持つことも困難だった時代に、自ら選んだ己の愛を貫き、シングルマザーという運命を引き受け、イサムを芸術家になるべく育てあげた母の物語。（映画祭ホームページより）

■ ザクロとミルラ – 愛知県初公開

- ・ 英題: POMEGRANATES AND MYRRH
- ・ パレスチナ/2009年/98分
- ・ 監督: ナジュワ・ナッジャー
- ・ 協力: 福岡市総合図書館、アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会

舞踊の名手アマルは、農園を営むザイドと結婚するが、間もなく、夫はイスラエル兵による農園没収に抵抗したため留置場送りに。夫解放の糸口を必死に探るが、事態はいっこうに進展せず、やがて、舞踊に対する後ろめたさも。パレスチナの豊穡(ザクロ)と苦味(ミルラ)に満ちた日常を背景としたラブロマンス。（映画祭ホームページより）

■ 坡州(パジュ) – 日本初公開

- ・ 英題: PAJU
- ・ 韓国/2009年/110分
- ・ 監督: パク・チャノク
- ・ 2009釜山国際映画祭アジア映画振興機構賞(NETPAC賞)

パジュは、北朝鮮との軍事境界線に接し、非武装地帯を有する韓国唯一の都市。かつての反政府活動や妻の事故死が、ジュンシク(イ・ソンギョン)の生活に大きな影を落とす中で、義理の妹ウンモ(ソウ)の成長を軸に二人の心は複雑に絡み合っゆく。深い霧でも有名な同地を舞台とした愛と葛藤の社会派サスペンス。

■ プリンセス・マヤ – 日本初公開

- ・ 英題: STARRING MAJA
- ・ スウェーデン/2009年/91分
- ・ 監督: テレサ・ファビク

スウェーデンの田舎町に住む18歳のマヤの夢は、女優になること。ステージ中央で喝采を浴びたいと思うが、太りすぎて不器用なマヤには少し厳しい夢だ。ある日、売れないドキュメンタリー監督のエリカと知り合い、自分のドキュメンタリー

を撮ることになった。マヤは夢を叶えられるのか。（映画祭ホームページより）

★ 皆様のご来場お待ちしております！

電子メール：huzu@huzu.jp

ウェブページ：<http://www.huzu.jp/>

風の交差点 風"s